

## Journal of Occupational Science (2017) 第24巻 3号

JOS 第 24 巻 3 号は「作業科学の幅を見出す」をテーマとし、10 編の論文が掲載されている。ゲスト編集者として巻頭言を記している Forwell はカナダの作業科学者であるが、「科学」という言葉を、複数の英辞典の記述を通して説明し、これらの辞書の語句に「実践活動」や「日常生活」という言葉が使われていることに触れ、作業の科学の妥当性と重要性について強調する。

本号で扱われる 10 編の論文は、ある特定の作業の歴史、作業と他領域の理論との関係、一人の哲学者と作業科学との関係、脳科学、テクノロジー、高齢者の大規模調査、移行を取り巻く家族の経験、刺青を入れることの経験、求職活動の経験など、多岐にわたる。

第 1 編目は Wrisdale らによる論文で、「水や下水道の使用」という作業について、南アフリカの水の使用に関する文献研究と 2012 年に南アフリカで実施した質的研究から明らかにしようとする。研究から、水の使用と作業に影響を与えるものには、環境、政策、社会-経済、態度要因があることが明らかになり、水の使用が作業的権利の一部であると考えらるべきであることを論じる。

第 2 編目は Anger によるもので、作業的公正という概念に心理学のエンパワメント理論を用いることを勧める論文である。著者は、コミュニティ心理学のエンパワメント理論について記し、これを自身の臨床（アメリカ）で適用し成功した例を紹介する。そして、作業科学にとってのエンパワメント理論の有用性を支持する。

第 3 編目は Jansson らによるもので、アメリカに亡命したドイツのユダヤ人哲学者の Hannah Arendt (1906-1975) が「人間の条件 (The Human Condition)」という著書で伝えるのが、作業のより深い理解につながり、作業科学を支援することを記す。Arendt は人間の作業は常に調整されているとし、最近の作業科学文献で取り上げられている人間作業の領域の公共的側面も強調する。作業科学は衰退という側面も含め、人間作業のすべての側面を含む必要があり、「人間の条件」がこれに貢献できるだろうという考えが述べられる。

第 4 編目では Williams は、作業科学において依然として研究途上の概念である感覚処理と作業の関係について述べる。本論では、神経認知理論が、個別および全体的な人間-環境のトランザクションにおける相互作用の構成要素として、作業の意味づけ、作業の従事、社会

参加、そして適応などの概念を探索するために作業科学で利用できるかもしれないとする。

第 5 編目は Fischl らが、日々の生活におけるデジタルテクノロジーの普及の中で、高齢者の日常生活上のデジタルテクノロジーを使った作業従事の方法や、彼らのおかれた状況について、スウェーデン北部に住む 10 人の高齢者を対象にナラティブ分析を行っている。ストーリーを通し、高齢者は自分のアイデンティティと折り合いをつけながらデジタルテクノロジーの中で日常生活に参加していることが、作業のレンズを通し理解できたことが提示される。

第 6 編目は、Lood が北スウェーデン地区のナーシングホーム居住者 4451 名の作業参加の状態を、症状、居住者の特製、ナーシングホームの特製、ナーシングホームの影響から調べた調査である。ここでは居住者の社会的作業参加は平均 5.8 回であること、認知障害の症状が少ないこと、女性であること、入所期間が短いこと、認知症専門ケアユニット生活などが影響していることがあきらかになった。また、作業機会の提供のためにはさらなる研究が必要であることが提示されている。

第 7 編目は、Chapdelaine らによる現象学的アプローチを用いた研究で、高校に入るといってトランジション（移行）を経験する子供を持つ親がどのような経験をするかを作業の視点で深く理解することを目的とし、カナダのバンクーバーとその周辺地域の公立高等学校の初年に子供がいる 5 人の母親からデータを収集したものである。この結果、母親の経験には、冒険、作業的欲求の誘導、コミュニケーションの再設計、共同的移行の 4 つのテーマが認められたとしている。

第 8 編目は、Kay らによるもので、刺青をいれることの個人的経験を 6 人の対象者に対するインタビューし、質的現象学的アプローチで理解しようとしたものである。その結果、個人ニーズにあうための調整、肯定的な感情の生成、ボディーイメージの改善、他者関係の改善を含む 8 つのテーマが確認された。これらのテーマを著者らは、Wilcock (2006) のすること、あること、なること、属することのフレームで検討し、刺青を経験の側面と、作業の理論概念とをつなげる形で刺青という作業の理解を深めている。

第 9 編目は Bruyn によるもので、イギリスで仕事探しの

作業をしたことがある人を対象とした解釈学的現象学的分析である。参加者一人に対し 3 回の面接が行われ個別、相互分析が行われた。その結果 (1) 自己とアイデンティティの理解, (2) 関係の理解, (3) 求職活動は旅という 3 つのテーマが見出され, 求職活動とは, 形態, 機能, 意味が人や作業, 環境に関係する内的要因や外的要因の影響を受ける豊かな人間の作業であると結論づけられた。

最後の論文は, Peter らによる文献レビューで, 作業科学や作業科学研究者への提言を目的とし, ヘルスリサーチの影響力を理解するために使われてきた方法, およびリサーチインパクトの定義や測定について分析している。Peter らは, 論文執筆者は方法の選択に際し評価の目的を熟考すべきであり, 研究者はプロジェクトが終わる前にリアルタイムでその影響力についてのデータを集めるべきことやリサーチインパクトを検討することが研究の質を高め, 資金を増し, 領域を進歩させること, 大きな影響力を確保するためには政策立案者と潜在的な利用者に関与することを考えなければならないこと示唆している。

10 編の論文の著者は, スウェーデン (3 編), 南アフリカ (2 編), 米国 (2 編), カナダ (2 編), イギリス (1 編) であるが, 研究者が国を跨いで共同している論文も複数見られた。残念ながらアジア圏から執筆された論文は見られなかったが, 作業科学の発展を目指してそれぞれが異なる対象, 方法論, 視点から作業を捉えており, 作業科学の範疇の広さを再確認できる論文が掲載されている。

近藤知子 (杏林大学)

#### 文献 (雑誌掲載順)

- Laura Wrisdale, Matodzi Michael Mokoena, Lutendo Sylvia Mudau & Jo-Anne Geere To cite this article: Laura Wrisdale, Matodzi Michael Mokoena, Lutendo Sylvia Mudau & Jo-Anne Geere (2017) Factors that impact on access to water and sanitation for older adults and people with disability in rural South Africa: An occupational justice perspective, *Journal of Occupational Science*, 24:3, 259-279, DOI: 10.1080/14427591.2017.1338190
- Joy Agner (2017) Understanding and applying empowerment theory to promote occupational justice, *Journal of Occupational Science*, 24:3, 280-289, DOI: 10.1080/14427591.2017.1338191
- Inger Jansson & Petra Wagman (2017) Hannah Arendt's *vita activa*: A valuable contribution to occupational science, *Journal of Occupational Science*, 24:3, 290-301, DOI: 10.1080/14427591.2016.1277780
- Kathryn L. Williams (2017) Understanding the role of sensory processing in occupation: An updated discourse with

- cognitive neuroscience, *Journal of Occupational Science*, 24:3, 302-313, DOI: 10.1080/14427591.2016.1209425
- Caroline Fischl, Eric Asaba & Ingeborg Nilsson (2017) Exploring potential in participation mediated by digital technology among older adults, *Journal of Occupational Science*, 24:3, 314-326, DOI: 10.1080/14427591.2017.1340905
- Qarin Lood, Sabine Björk, Anders Sköldunger, Annica Backman, Karin Sjögren & David Edvardsson (2017) The relative impact of symptoms, resident characteristics and features of nursing homes on residents' participation in social occupations: Cross-sectional findings from U-Age Swenish, *Journal of Occupational Science*, 24:3, 327-337, DOI: 10.1080/14427591.2017.1306721
- Sarah Chapdelaine, Heather Shields & Susan J. Forwell (2017) How mothers experience their adolescents' first year in high school, *Journal of Occupational Science*, 24:3, 338-350, DOI: 10.1080/14427591.2016.1254675
- Hannah Kay & Claire Brewis (2017) Understanding tattooing from an occupational science perspective, *Journal of Occupational Science*, 24:3, 351-364, DOI: 10.1080/14427591.2016.1241186
- Marna de Bruyn & Josh Cameron (2017) The occupation of looking for work: An interpretative phenomenological analysis of an individual job-seeking experience, *Journal of Occupational Science*, 24:3, 365-376, DOI: 10.1080/14427591.2017.1341330
- Nedra Peter, Anita Kothari & Sara Masood (2017) Identifying and understanding research impact: A review for occupational scientists, *Journal of Occupational Science*, 24:3, 377-392, DOI: 10.1080/14427591.2016.1277547
- 翻訳協力者  
中嶋克行 (山陽小野田市役所福祉部)  
中村拓人 (神奈川県立保健福祉大学)  
小田原悦子 (自宅所属)  
馬場博規 (磐田市立総合病院)  
鴨藤菜奈子 (ぴあクリニック)  
近藤知子 (杏林大学)  
西方浩一 (文京学院大学)  
吉川ひろみ (県立広島大学)  
坂上真理 (札幌医科大学)  
鹿田正隆 (常葉大学)  
馬場博規 (磐田市立総合病院)  
鴨藤祐輔 (訪問看護ステーション不動平)